

himac APPLICATION

No.27-2 JANUARY 1992

- 題目** 分離用小形超遠心機によるリポタンパク質の分離
機種 CS120/100形日立分離用小形超遠心機
 RP100AT4 アングルロータ
概要 RP100AT4 アングルロータによりヒト血清中からリポタンパク質を迅速に分離した例

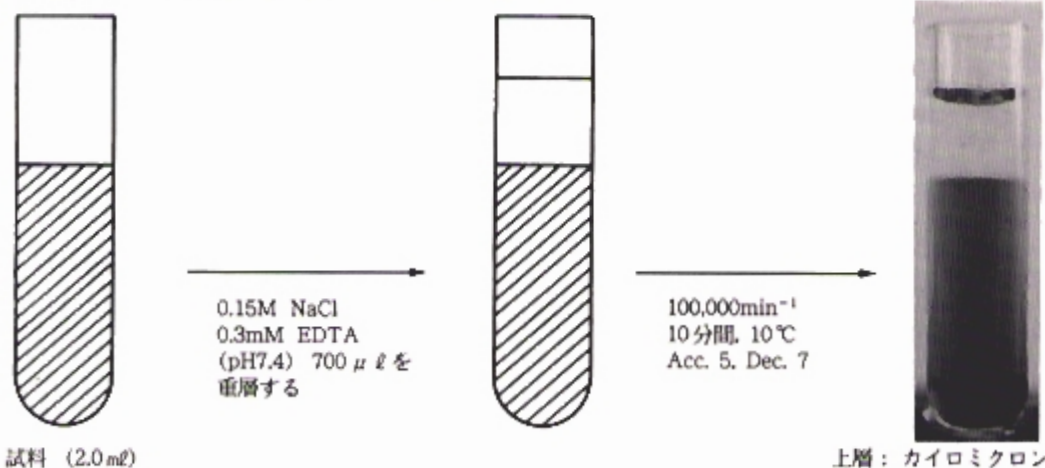
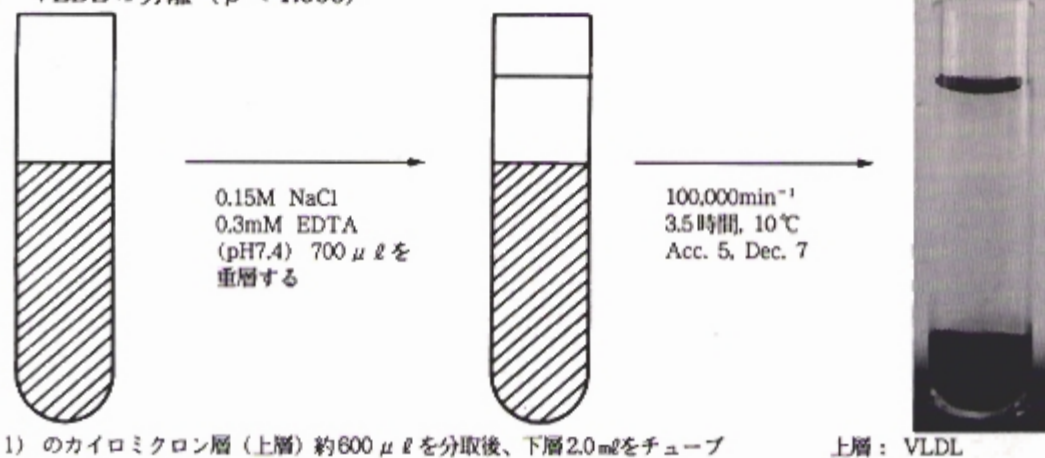
血清中に含まれているリポタンパク質は、脂質の代謝に密接な関係があります。ここでは、分離用小形超遠心機を用いて、ヒト血清中よりリポタンパク質の分離を行いました。

1. 使用機種

本体 : CS120形日立分離用超遠心機 (CS100でも同じ条件で分離できます。)
 ロータ : RP100AT4アングルロータ
 チューブ : 3PCチューブ

2. 操作および分離結果

実験は、目視による観察ができるよう、試料にFAT RED 7Bを5 μ l混合して行いました。"

1) カイロミクロンの分離 ($\rho < 1.006\text{g/ml}$)2) VLDLの分離 ($\rho < 1.006$)

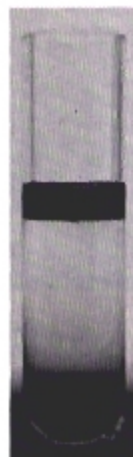
1) のカイロミクロン層 (上層) 約600 μ lを分取後、下層2.0mlをチューブの底から取り、別のチューブに移す。

3) LDLの分離 ($1.006 < \rho < 1.063$)



KBr166.8mgを溶解後、遠心

100,000min⁻¹
3.5時間, 10℃
Acc. 9, Dec. 7



上層: LDL

2) のVLDL層(上層)約600 μ lを分取後、下層
2.0mlをチューブの底から取り、別のチューブに移
す

4) HDLの分離 ($1.063 < \rho < 1.21$)



KBr340.3mgを溶解後、遠心

100,000min⁻¹
6時間, 10℃
Acc. 9, Dec. 7



上層: HDL
下層: VHDL
アルブミン等

3) のLDL層(上層)約600 μ lを分取後、下層
1.4mlをチューブの底から取り、別のチューブに移
す

参考文献

1) T. J. Bronzert, H. B. Brewer, Clin. Chem., 23, 2089 (1977).

尚、当資料に関する御質問等がございましたら日立工機(株)精機事業部応用開発グループまでお願い致します。

日製産業株式会社

本社 東京都港区西新橋1丁目24番14号

〒105 電話 東京 (03)504-7211(ダイヤルイン)

事業所 札幌(011)221-7241

仙台(022)264-2211

筑波(0298)23-7391

北関東(0486)53-2341

横浜(045)671-5421

新潟(0252)41-3011

北陸(0764)24-3386

豊田(0565)28-5191

名古屋(052)583-5841

京都(075)241-1591

大阪(06)366-2551

四国(0878)62-3391

岡山(0864)25-1316

広島(082)221-4514

九州(092)721-3501

沖縄(0988)78-1311

日立工機株式会社

本社工場 〒312 茨城県勝田市武田1060番地 電話 勝田 (0292)73-8111(大代表)
0120-024125